

【 検 査 】**７７５ 超音波検査（断層撮影法）（胸腹部）（産科領域）の算定回数について****《令和８年１月３０日》****○ 取扱い**

産科領域における次の傷病名等に対するD215「２」「ロ」（１）超音波検査（断層撮影法）（胸腹部）の算定回数（間隔）等は、原則として次のとおりとする。

- (1) 切迫流産（妊娠５週以降妊娠２２週未満）・切迫早産（妊娠２２週以降妊娠３５週未満）に対しては、外来は週１回、入院は週２回
- (2) 子宮内胎児発育不全・発育遅延（妊娠２２週以降）に対しては、外来は２週に１回、入院は週１回
- (3) 異常胎位・胎盤異常（妊娠３６週以降）に対しては、週１回
- (4) 前置胎盤・低置胎盤（妊娠２２週以降）に対しては、２週に２回
- (5) 羊水過多症・羊水過少症（妊娠２２週以降）に対しては、２週に１回
- (6) 多胎妊娠（妊娠５週以降）、児頭骨盤不均衡（妊娠３７週以降）に対しては、２回
- (7) 子宮頸管無力症（妊娠１２週以降）の診断確定時は１回、頸管縫縮術前後は各１回
- (8) 卵巢過剰刺激症候群に対しては、１か月に３回

○ 取扱いを作成した根拠等

産科領域における超音波検査（断層撮影法）（胸腹部）は、妊娠経過中の母体と胎児の状態を把握する上で有用であり、異常が発生した場合の適切な実施回数（間隔）は、傷病名、妊娠週数及び重症度に応じて異なるものと考えられるが、原則として上記のとおりが妥当と判断した。